

第 257 回(3 月)

インターネット実用の方法を探る

株式会社日立テレコムテクノロジー 常務取締役 都丸敬介氏

インターネットとは、ネットワークの相互接続である。その最も重要なポイントは異なった仕様のコンピュータどうしのデータ交換が出来ることであり、その中心となっているのがパケット通信である。1970 年代初期に、米国で学術・研究ネットワークとして始まり、90 年代に商用アクセス事業を開始した。日本では 1992 年に商用サービスが開始された。米国での普及の背景には全米科学財団の資金援助による安い通信コスト、プロトコル（データのやり取りの約束事）とアドレス（相手を特定するための番号）が標準化されたことがある。利用方法は、情報交換（電子メール）、情報分配手段（ファイル転送）、情報収集手段（データベース）などコンピュータネットワークと同じである。1993 年の米国の利用状況は、データ転送 45%、情報検索 24%、電子メール 18%、システムメンテナンス 7%、その他 6%であり、使っている部門は研究機関 48%、商用サービス提供（通販）29%、防衛関連 10%、政府機関 7%、教育機関 6%である。新しい用途として、電子取引(EDI)、娯楽と教育を合体させた Edutainment がある。日本で開始された商用サービスの利用方法は、専用回線接続と交換回線接続がある。交換回線の場合、基本料金 3000 円／月＋30 円／分の利用料金に加えて NTT の電話料金がかかる。その他に NIFTY・PC-VAN 経由の接続も出来る。インフラとして www（World-Wide Web、どこにアクセスすれば良いのかの仕掛）や Mosaic（画面に見やすく表示する仕掛）などが完備している。企業で利用する場合、紙をエレクトロニクスに置き換えるということではなく、組織と仕事のやり方そのものを変革することが前提条件である。